

第1章 概要

1 管内の概要

位 置

管内は、岐阜県の東南端に位置し、東は長野県、南は愛知県に接し、森林構成比が極めて高い農山村型の地域であり、その広さはおよそ東西に34km、南北に67km、面積は岐阜県の11.1%にあたる1,180.69km²で中津川市・恵那市からなっている。

地 勢

北東に三界山、西に笠置山、二つ森山、東に恵那山、南に奥三河高原に囲まれ、長野県に源を発する木曾川が管内のほぼ中央を東から西へ貫流し、南端では矢作川が愛知県との県境をなし、山河に恵まれた起伏に富んだ地形である。気象は内陸型、雨量、積雪ともに少なく冷涼である。

人 口

令和4年の人口は121,006人（R4.10.1）で岐阜県全体のおよそ6.2%を占めている。人口は昭和35年から45年にかけて減少し、その後横ばいの状態が続いたが、平成17年を境に減少が続いている。年齢構成は、平均寿命の伸長、出生率の低下、若年者の大都市への流出等から人口の高齢化が急速に進んでおり、老年人口が34.4%を占めている。

交 通

JR中央線、第三セクターによる明知鉄道のほか、主要幹線道路として中央自動車道をはじめ、国道19号（名古屋市～長野市）、256号（岐阜市～飯田市）、257号（浜松市～高山市）、363号（名古屋市～中津川市）、418号（大野市～飯田市）の5路線と主要地方道12路線、一般県道25路線など、地域の経済活動、生活基盤、救急医療、防災を支える動脈として、交通のネットワークを形成している。

観 光

恵那峡、胞山、裏木曾の三つの県立自然公園をはじめ、阿木川湖、椈の湖などの優れた景観をみることができる。

また、岩村城跡、苗木城跡、日本大正村並びに中山道沿いには、馬籠宿をはじめ、先人によって育まれてきた数多くの文化遺産があり、近年は国内のみでなく海外からの観光客も増えてきている。